

大阪 荷動きと海外動向を注視し様子見推移

(大阪) 大阪地区の鉄スクラップ市況は様子見商状。東京製鉄要因での不安は残るものの、月替わりの荷動きに勢いを欠き、先月後半に比べて海外の下げ圧力も緩和されてきたことで、膠着気配を強めたままにある。

同地区電炉のH2実勢値は5万～5万500円(一部上値5万1500円)、新断バラ同5万4500～5万5000円(同5万6500円)、鋼ドライ粉バラ同4万7000～4万8000円見当で推移。

週明け直後までの入荷増を受け、電炉筋によっては一定量の在庫を保有するなど、需要に温度差が見受けられることで、無理に実勢高値に合わせいく動きにはないようだ。また、今週前半の輸出商談も韓国の一部ミルが日本側に値下げを要求してきたことでも、今すぐ反転するほどの材料は見当たりにくく、地区湾岸

筋のH2を中心とした購買意欲も低いままにある。こうした内外格差拡大を背景に、東京製鉄では地区価格に影響力を持つ田原工場を始め、岡山工場もコンスタントに海上玉を取り込めているため、「東鉄次第には変わらず、下げ要因が完全に消えたわけではない」(電炉購買担当者)という。

ただ、中国鋼材市場が落ち着きを取り戻し、同国向け鉄鉱石価格も再び200ドル水準へと回復を見せている。また、6月を迎え、先週後半から週明け直後までの月末環境に比べれば、電炉入荷は落ち込みが指摘されていることで、「上下どちらへも向かいづらいにせよ、メーカーによっては入荷上積みが求められる以上、瞬間的に買いを強める動きも出てくるのでは」(ヤード業者筋)との声も聞かれる。

山原商会、大型トラック用車庫を新設 点検整備が円滑に

(山口) 金属スクラップディーラーの山原商会(本社=山口県宇部市、山原一紀社長)は港町ヤード内で進めていた車庫の新設工事が完了し、5月31日に竣工した。

車庫は大型トラック用で、最大9台の収容が可能。屋内なので天候に左右されず、車輛の点検整備が円滑にできるようになり、運転手の安全確保も図れる。

今回、車庫の新設に伴って、港町ヤードの半分を駐車場に整備。車庫に収まらない大型トレーラー、従業

員用の駐車場としても利用できる。また残りの敷地は鉄板を敷いて炉前材のストックスペースにリニューアル。重機を1台完備してお

り、いつでも出荷できるように工夫した。港町ヤードは2018年10月に開設。敷地は1200坪。



新設した車庫

黒川友二氏(扶和メタル会長)、京都大学に個人で1億5000万円を寄付 研究者の育成支援へ

扶和メタル(本社=大阪府中央区、勝山正明社長)の黒川友二会長は個人として京都大学に計1億5000万円の寄付を行ったことにより、2日(水)に京都大学の湊長博総長から感謝状が贈呈された。寄付金は12年にノーベル医学・生理学賞を受賞した山中伸弥教授が進めるiPS細胞の研究支援を始め、京都大学の学生を支援する奨学金制度に充てられる。

京都大学の湊総長によると、大学の研究費用は国から補助金を受けられるが、これらは研究材料や機材を対象とし、研究者や技術者といった人件費には支出されない。このため、生活に支障なく、研究活動を継続し、向学心を絶えさせないためには民間による経済的支援が不可欠とされてきた。こうした窮状を鑑みて、研究活動や研究者への支援に向け、15年に関西の企業などから寄付を募る「山中伸弥さんを支える会」を発足した世界的建築家の安藤忠雄氏は新たに大手家具メーカーと中心となって意欲ある学生らを支援する返済不要の奨学金制度を創出。かねてから安藤氏と交友関係にあった黒川会長は研究者育成に賛同の意を示し、iPS細胞研究財団に1億円、奨学金制度に5,000万円の寄付を行った。感謝状を手渡した湊総長は「良い人材を枯渇させないためにも、今回の多大なる支援を研究者育成に向けて有効に活用させてもらいたい」と述べ、安藤氏も「科学技術を発展させていくには民間の支援

が必要だ。現状を理解し、支援して下さった黒川さんの心意気に感謝したい」と語った。

黒川氏は社会貢献活動に早くから力を入れている。中でも、十数年前に海外の空港でボ

ランティア活動を行っている日本人と出会い、学校や病院建設への援助を申し入れたところ、国によっては軍政権や行政能力の低さから学校は武器の保管庫、病院は設備の老朽化とともに無用の長物になることを教えられた。それならば、恵まれない子供達に直接手の届く援助が望ましく、学校に行けない子供達が独り立ちするまで支援し続ける「チャイルド・スポンサーシップ」を勧められ、今では20ヶ国20人の支援も行っている。感謝状を受け取った黒川氏は「大阪にはコツコツ貯めてパッときれいに使えという先人たちの教えがあり、私自身、大阪商人として、世のため、人のためにお返しすることを続けている。これを機に、業界内で支援を必要とする人々や団体に手を差し伸べていく社会貢献への輪が広がってほしい」と力強く語った。



写真左から安藤忠雄氏、黒川友二氏、湊長博氏